

5月号 第91号

発行日 : 2024年4月22日

発行 : 虹技株式会社

安全環境管理部 環境管理G  
姫路市大津区勘兵衛町4丁目1  
☎ 079-236-3257

# 「虹の森」通信

## 春到来!

先月は、三寒四温に振り回されっ  
放し。 そのおかげで桜の開花も  
遅くなって、久しぶりに4月上旬の花見が楽しめまし  
たね。 やっぱりお花見は4月の方が良いですよ。ね。  
タイトルバックは、ギンリョウソウのつぼみです。  
この草はとってもユニークで、光合成を一切せずに、  
他の植物から栄養をいただいて成長します。 なので、  
透き通った色白さんで、咲いた花はうなだれているよ  
うに見え、まるで幽霊が宙に浮いたような姿で、別名  
はユウレイタケ。 タケって言っても草なんですけど  
ね。



こちらは、クロモジの花です。 そう、和菓子なん  
かを食べる時にフォークではなく、あの風情のある楊  
枝を使いますが、あれの材料となる木です。 茶道具に  
「くろもじ」は欠かせません。 香りが良く、抗菌作  
用もあるので薬や香料の材料としても利用されます。  
花もこの通りとても愛らしくきれいなんですよ。



この可憐な白い花はミヤマカタバミです。 カタバ  
ミはハート形の3枚葉ですが、この葉は中央がへっこ

んでいるのが特徴です。



こちらは、仏事には必ず使われるシキミの花です。  
優しい黄色が美しい花ですが、有毒で強い香りを放つ  
ため邪気を払うとされます。 また、墓を荒らす害獣  
をも毒で寄せ付けないことから墓地に植えられるこ  
とが多いです。 植物で唯一、その実が毒劇法により  
劇物指定されているほどです。



ゆめさきの森のアイドル、「ツツピ〜♪」の鳴き声  
でおなじみのシジュウカラさんについての新情報。  
なんと、すてきなしぐさがあるのだそうです。 彼ら  
は夫婦で協力し合い巣作り・子育てをしますが、  
同じタイミングで巣箱に入ろうとすると片方が翼を  
震わせるジェスチャーで「お先にどうぞ」と意思表示  
するんだって。 この写真はちょうど巣作りをしてい  
るところ。 鳥ってのは、けなげで賢い生き物ですね。

# 環境爺(びびい)のつぶやきコラム



ぶつぶつ

以前に触れていたドラマ「ふてほど」はおもしろかったのう。過去から見た現代を、現代から見た過去をそれぞれの背景で以て批判することで、どちらにも「不適切にもほどがある！」とする痛烈なメッセージは小気味よかった。劇中で現代のスマホ依存をからかうシーンがあったが、わしもスマホを使って以来、便利過ぎて、これを使わんで生きることなど、もう考えられん。



ところが、つい先日そのスマホの逆襲に驚かされたのじゃ。スマホを手帳型のケースにしまおうとした途端「はいこちら警察です。何かありましたか？」とスマホから聞こえるはっきりとした女性の声に、腰が抜けそうになった。慌てふためきしどろもどろで説明し、事なきを得たが、警察になんぞ電話した覚えはない。調べてみたら、電源を押した時のパターン認証画面の下に「緊急通報」というボタンがあるのに初めて気付いた。どうやら、ケースに戻す際、無意識にここに触れたみたいじゃ。今どきの皆は知っているんかのう？

さて、今回は、日本近海で魚が取れなくなっているという新聞記事を紹介しよう。それによると、このまま漁獲量が減り続けると、2050年には、漁獲量は何とほぼゼロになるというのじゃ。魚好きのわしにとっては一大事。(26年後生きてるんかいなあ！?) 記事によれば、スルメイカは最盛期から95%も減って、たったの5%しか取れないそうじゃ。更に秋の味覚サンマは、最盛期のたったの3%、マイワシに至っては、最近少しは戻って来てはいるものの、一時は最盛期の1%ほどじゃったそうじゃ。そういや、ス

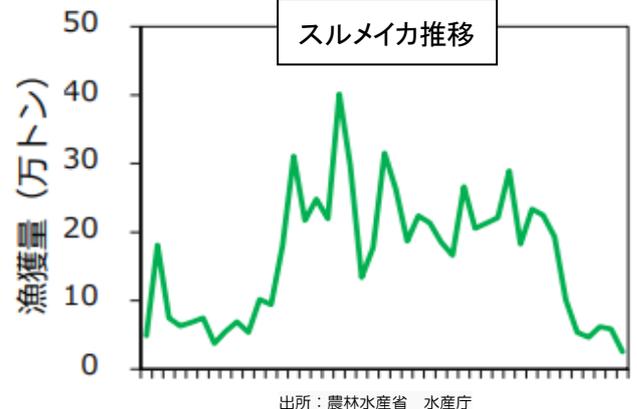
ーパーで秋にサンマはあまり見かけんじゃったし、あってもたいてい高かった。そういうことか。スルメイカもじゃ。焼いても煮ても炒めても、刺身にしても旨いスルメイカは、ハイスペック食材じゃと思うし、サンマの塩焼きも焼き魚では旨さナンバーワンじゃ。こりゃ大変だと感ずるのはわしだけか？

日本近海の漁獲量の推移



これら漁獲量減少は人為的環境破壊が原因だと言いたい所じゃが、そんなことない。いろいろな原因が考えられるんじゃ。北の国ではその昔、ニシンが大漁であった。しかし、今はもうほとんど取れんようになってしまった。専門家があれこれと原因を考え、海流の変化や海水温度の上昇だとか、乱獲などを原因としておるが、これとてとどのつまり分らないのが実際のところじゃ。

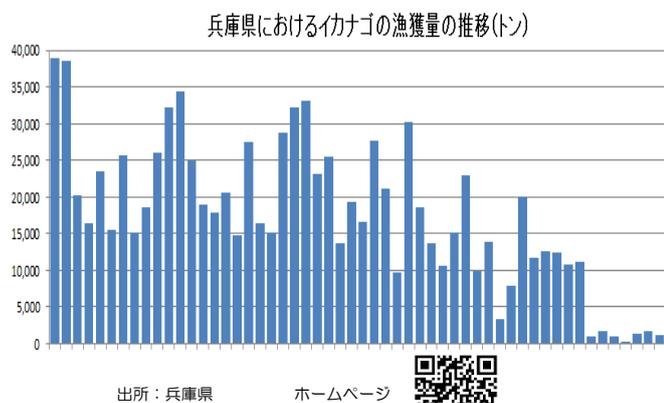
スルメイカ推移



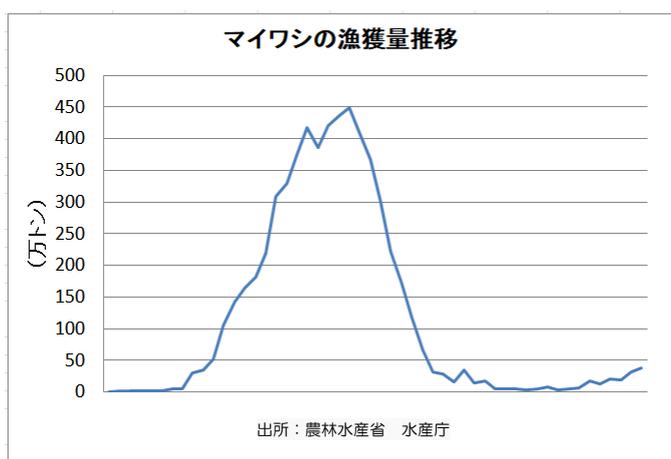
兵庫県では、瀬戸内海の春の名物、イカナゴのシンコが5年連続の不漁。悲しんだのはわしだけではなからう。2016年までは、1万トン超えの漁獲量が、翌年には激減し、わずか1割の1000トンに。それがさらに2020年には142トンとケタ違いに落ち込

んだのじゃ。 どうりで、春になってもわしの口に入ってこんわけじゃわい。 くぎ煮はこころ回りじゃご飯のお友に最高だし、酒のアテにもグーッな春の名物。この時季、くぎ煮作りの名人たちがやたらといて、ふるまってくれるのが素敵な風習じゃのに〜。

## イカナゴの漁獲量

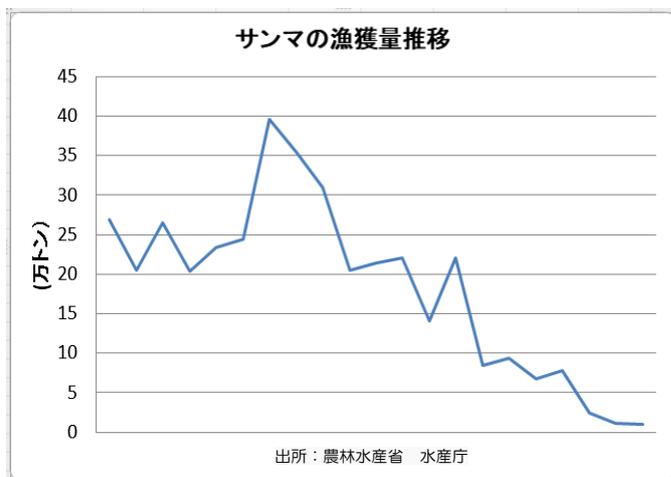


瀬戸内海のイカナゴ不漁には仮説があつての、それが有力な原因だと言われている。海水の栄養分が少なくなって、プランクトンが減少しているのが原因ではないかというのじゃ。栄養分がなんでなくなったかというのじゃな。本来、山や森から流れ出た栄養が川から流れ海に注がれるのじゃが、川の水を使う工場が、その水処理工程で汚濁はもちろんチッソやリンの栄養素も排水する前にきれいスッキリと除去していることが貧栄養の原因とされておるのじゃ。

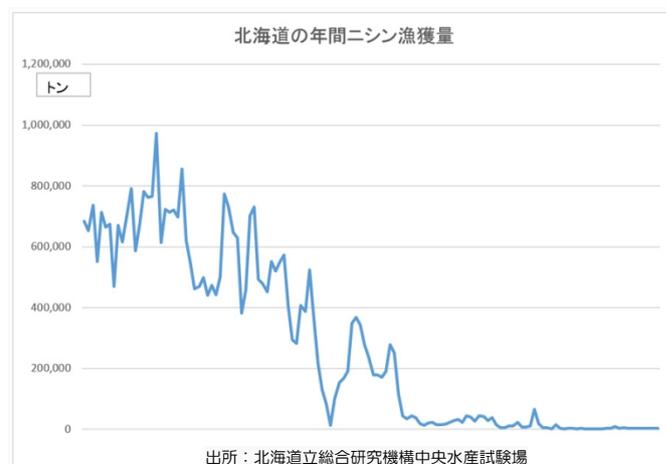


公害防止のために手間暇かけて、水をきれいにしていたが、それこそがイカナゴの不漁をまねいとるとは辛い。チッソとリンは赤潮を発生させるとしてその排水を規制されておるから、勝手に排水濃度を変えるわけにもいかん。でも、イカナゴは食いたいし、どうすりゃええんじゃ。

関連した記事では、養殖された稚魚の放流が天然魚の自然な成長と繁殖を阻害し、結果として生育を減退させてしまう原因になるというのじゃ。これもまた、大きな問題じゃ。公害防止の水処理と同様に稚魚放流問題も逆効果へ向かっているとは、何たることじゃ。



これら行なってきたことは、いずれも良かれと信じたことが望まぬ結果をまねいておるとはのう。自然のシステムは、人間の浅知恵でコントロールできるほど安易ではないと肝に銘じなきゃいかん。漁獲量の変化を、単純に温暖化による生育環境の変化が原因だという決めつけは、なるほど感はあるじゃろうが、真実からどんどん乖離する危険性を帯びておる。結果として、的外れな対策を掲げることになりかねん。案じて以前から言うておるが、自然は常に変化しておつて、それを少し前の状態に引き戻すのにやっきになって労力を費やすより、変化する自然に追従し、先ずは、我々人類が変化しなきゃならんのではないのかな。



サンマ、スルメイカ、イカナゴ、マイワシ、ズワイガニ・・・おいしいお魚を、喰えなくなる日がどうか来ないようにと祈るばかりじゃ。



## 虹の森なう

さてさて、森の桜もそろそろ終わりのうららかな日の活動でした。公園の職員さんたちから「そろそろ出てきているので、気を付けてくださいね」の言葉に緊張が走ります。そうです！ヒル君のことです。なので、ヒル対策は万全を期しました。ヒルよけスプレーを入念に振りかけ、長靴の開口部はガムテープでぐるぐる巻きにして対抗。完璧です。



今回は、鉄鋼の武田さんと、絃太郎君(5才)も初参加。自然の中で遊ぶのが大好きなチビちゃんも、我々の作業中、楽しそうに森の中をウロウロ探索。チェーンソーの音さえひるまず、ちゃんとお父さんのお手伝いもしてくれましたよ。

今回は、デッキへのアプローチ階段の骨組み設置と、枯れた老木の伐り倒しがメインです。どちらも、チェーンソーを駆使し、ダイナミックな作業が続きます。特に、斜面に生えた老木を倒すのは、それはそれは迫力満点で、森中に倒木の音が響き渡ります。枯れた木が倒れるときにバキバキッと折れていくのも豪快です。



ヒルに注意しながらも、作業に熱が入り、今回は仕事が進みます。遊歩道を造る場所の周辺に、枯れた木をそのままにしておくと危険なので、徹底的に倒していきます。バリバリ、バックーンッと森中が揺れるような迫力にも絃太郎君はひるむことはありません。

どうにか、階段の骨組みは取り付けられ、ここでタイムアップ。今月は、恒例となった新入社員教育をこの森で行う為、今回、階段まで取り付けなかったのですが、残念です。森周辺の雑木伐採も進めたので、ずいぶん森が明るくなった印象です。

さて、来月は、「ゆめさきの新緑まつり」が開催されます。なので整備活動はお休みです。今回も、虹技は楽しいブースを出しますので、新緑まつりに、是非遊びに来てくださいね。



兵庫県立  
ゆめさきの森公園

GW特別企画 | ゆめさきの

# 新緑まつり

2024年 5月4日(土) 10:00~15:00  
みどりの日〈小雨決行〉

会場 県立ゆめさきの森公園 入場料・駐車料 無料